

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。このコーナーでは、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、愛知県にある椋山女学園大学現代マネジメント学部准教授・水野英雄先生が、教員を目指す大学生に向けて、経済学者の視点で金融教育に取り組んできた実践についてご紹介します。

教員養成現場における金融教育

水野先生は、2013年春まで教鞭をとっていた愛知教育大学で、17年間、教職を目指す学生を対象に経済学の講義を行ってきました。赴任当初、まず驚いたのは教育学部の学生の経済に対する無関心さでした。さらに教育学部の学生のみならず教育現場に、「教育は聖職だから、お金のことは考えるべきではない」という意識があることを感じ、経済について教育する必要性を実感したと言います。

「例えば、食料自給率が低いことは悪いことばかりのように言われますが、日本人の食生活が多様化し、さまざまな外国の食品が輸入されるようになったのですから、自給率が下がるの

は当然のこと。教育学部の学生はやや

善悪の二分法で考える傾向があつて、

もう少し合理的な判断があつてもよい

と感じました。また、『お金儲けは良

くない』という意識も強く、『適切な

利潤』という経済学的視点も欲しいと

思いましたね」と水野先生は話します。

そのため、実際の学校での授業に関

連づけて経済学的な発想を示したり、

地理の分野で地域の産業構造を経済学

の「比較優位」※に基づいて説明したり、

歴史の分野では財政の悪化という視点

で江戸時代の改革と現在の改革の類似

性を説明したりするなど、分かりやす

い例を示して教えることにしました。

そうすることによって、学生たちの興

味・関心を高めることができたと言

います。

※比較優位：他の地域と比較して優位性がある要素（資源・国土・人口など）を活かしたものの生産に各地域が特化していくことで貿易が行われ豊かになる、というイギリスの経済学者リカードによる経済学概念

「経済学は実学」への挑戦

水野先生は、経済学者、実務家（産業界）の双方で、「経済学の理論と現実の経済問題の乖離」という捉え方をされることに問題があると感じていました。「現実の経済問題を分析し、有意義な解答を導くことが経済学理論の役割。つまり、経済学は実学なのです」。

「経済は常に変わっていく生き物」といわれます。バブル期には高級品が売れ、平成不況のデフレ下では安価な商品がもてはやされたように、経済状

愛知県
椋山女学園大学 現代マネジメント学部
水野英雄准教授

況は常に変化しています。経済学は仮説を立て、自分で考えることが要求される学問であるため、『答えが不確実なもの、学校教育には適していない』といわれることが多いのは事実です。しかし、『不確実なものだけど、こういう見通しは立つよ』と過去との類似性を見たり、増税するとどうなるかなど、これから実社会で起こりうる景気変動やマクロ経済の状況を踏まえて貯蓄や年金などのことを考えたりしていくことは、現代社会を生きていくためには欠かせません。自分で判断する力を身につけるためにも、確かな人生設計を立てるうえでも、経済的知識が大事なのです」。

金融教育におけるアクティブラーニングの効果

そこで水野先生は、理論と実学を結びつけるために、経済学の学習と学校現場での活用という二重の意味で、楽しみながら経済理論と実学を同時に学べる「アクティブラーニング（体験型授業）」に注目しました。

例えば、「貿易を通じて世界の国々を理解すること」をテーマとしたゲームでは、実際の貿易のやりとりをゲームで学び、貿易の仕組みと得られる利益、それが国内外の経済にどう影響



するのかもしれないところまで理解を深めることが可能です。高校生への特別講座で実施したところ、「貿易と経済が身近に思えるようになった」「頭を使って工夫することの大切さが学べた」という感想が数多く寄せられたといえます。

また、大学生には株式投資をゲームにしたアクティブラーニングを実施。経済ニュースをもとに株価の変動を予想させ、学生自身が投資家としてゲー

ムを進めていく体験により、「景気回復・GDP拡大によりボーナスが上がり、自動車を買うことができた」「株価が経済だけでなく、政治にも影響されて変動することに驚いた」「資源価格、商品価格によっても株価は変化することが分かった」など、さまざまな声が上がったそうです。

「経済ニュースから株価の変動を予測する難しさを実感すると同時に、現実の投資家がめまぐるしく変化する経

■金融教育プログラム（高校生版）のカリキュラム

「世界の国々を理解しよう～貿易ゲームで学ぼう～」

1 講義 世界の国々と貿易を理解する（20分）

2 実習 貿易ゲーム

「みんなが幸せになるための世界の貿易」（50分）

3 実習 グループディスカッション

「世界のためになる貿易を考えよう」（15分）

4 講義 貿易の仕組みと利益を考える（15分）



現役教員にも広がる金融教育

済情報を入力して、株価の変動を予想しながら利益を生み出していることに思い至る学生もいました。経済は日常と無関係ではなく、『あらゆる世の中の問題は経済問題と結びつく』という実感を持てたのではないかと思えます」と水野先生。

前任校では、このアクティブラーニングを繰り返し実践した結果、水野先生を本手に、教師となつてから実際の教育現場で金融教育に挑戦している卒業生も多く、長年の取り組みが裾野を広げていることを実感しています。

自身が教壇に立ち、「教育現場における経済的知識の必要性」を痛感した17年前に比べると、最近では、金融教育に対する認知度や関心が格段に高まったと、水野先生は感じています。

例えば、水野先生が実践報告を行った『教員のための金融教育セミナー』（主催…金融広報中央委員会）や、『金融経済教育フォーラム』（主催…証券知識普及プロジェクト）など、学校の先生向けのさまざまな取り組みが増

加。2013年度の経済教育学会第29回全国大会では、水野先生は「アクティブラーニングを用いた教員養成における経済教育の実践」の功績により、第1回経済教育学会賞（教育実践部門）を受賞しています。

また、名古屋市内で5年ほど前から開催されている、『先生のための夏休み経済教室』（主催…経済教育ネットワーク・東京証券取引所、後援…金融広報中央委員会ほか）では、社会科、家庭科教員の受講者が年々増加しているそうです。「ただ、今はまだ個々の取り組み（点）であり、相互の関連性が薄いのが現状。うまくつなげて体系化し、点を線に、線を面にすることで、さらに広げていきたい」と水野先生は考えています。

経済学者として教育大学で教鞭をとったことをきっかけに、「教員養成における金融教育」を1つの専門分野として取り組んできた水野先生。本来は国際経済学（貿易政策）の専門家です。環境や資源の制約が厳しくなっている世界情勢の中で、金融や経済の視点から ESD (Education for Sustainable Development) / 持続可能な開発のための教育) の重要性などにも注目しつつ、今後も学校教育や教員養成に関わる新たな取り組みに挑戦したいと話しています。

資料：貿易ゲームで学ぼう！高校生向け教材



■貿易ゲーム、株式投資ゲームでの生徒・学生の感想

貿易ゲーム（高校生）

貿易の仕組みがゲーム形式で詳しく学べて面白かった。
 頭を使って、より良くしようと考えることの大切さが学べた。
 難しく考えていた国際貿易を身近に感じることができた。
 資源が多いところが有利なのだを知ることができた。
 すべてのことには経済が絡んでいることを知った。
 貿易にはアイデアやタイミング、1つ1つの行動が重要だと思った。



株式投資ゲーム（大学生）

景気の良いときに高いものが売れ、悪いときに安いものが売れる理由が理解できた。
 株価が経済や政治、自然災害によっても影響することに驚いた。
 ゲームは3つの株だけだったが、実際はもっと多くの株を動かし、動向予測をするのは大変だと思った。
 持っている株が紙くずになった。株取引には損を上げないために思い切りも必要だと思った。
 大きなリスクも伴ううえ、経済だけでなく世界の財政にも詳しくなければ難しいと思った。
 損はしたくないので、ゲームだけで十分だと思った。



株式投資ゲームの株の取引の様子



株式投資ゲームの教材

教員養成のための金融教育の実践

愛知県
 福山女学園大学 現代マネジメント学部 水野英雄准教授